

行商人デイルクと魔法の香炉

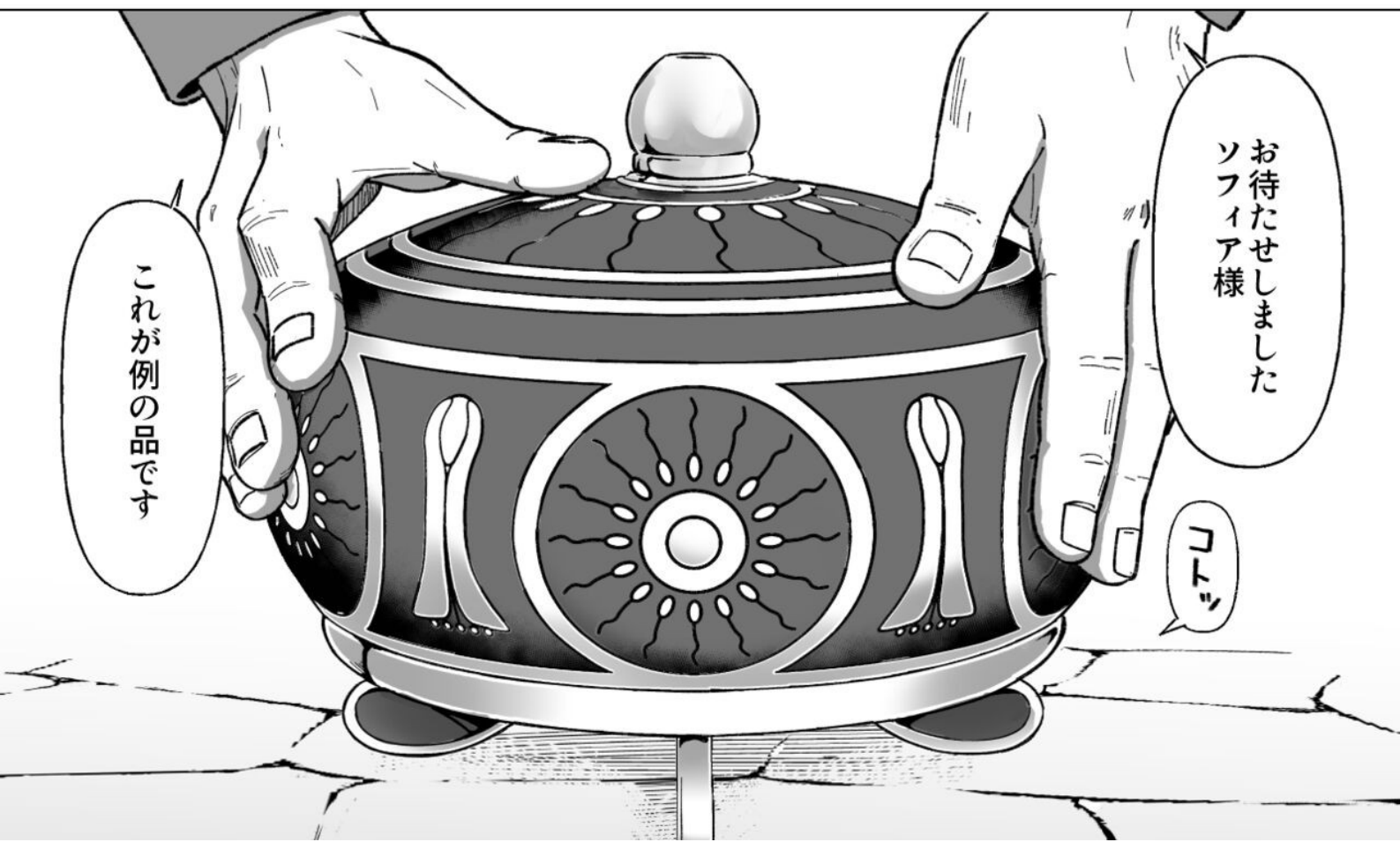
DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止



行商人デイルクと魔法の香炉

レプルス王国
アウリス地方

地方都市
ソムニウス



ほんと
本当に？

それを使うだけで
効果があるの？

ただの香炉こうろにしか
見えないんだけど

もちろん
ですとも！

ご友人のクララ様から
お話はお聞きになって
いるのでしょうか？



それはソフィア様も
ご存じのはず……



でしたら
ご安心を

効果の程は
クラ・様自身が
証明済みです



……一応ね



私が問題ないと
判断した方にのみ
お貸ししております



これは非売品で
既に使用されている
お客様からの紹介と



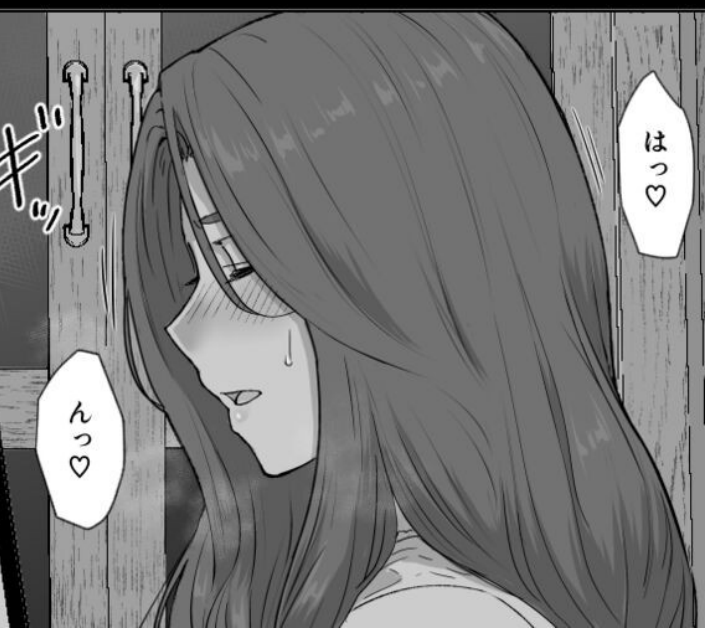
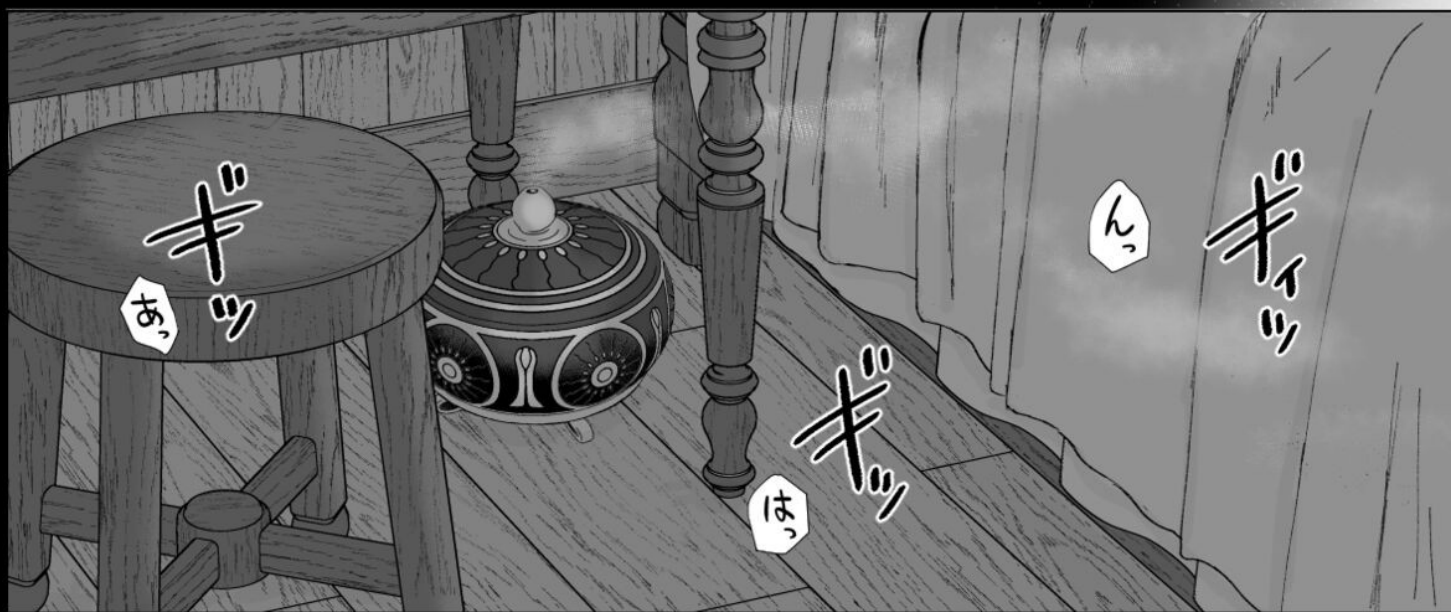
香炉の中に
お二人の髪を
数本入れること

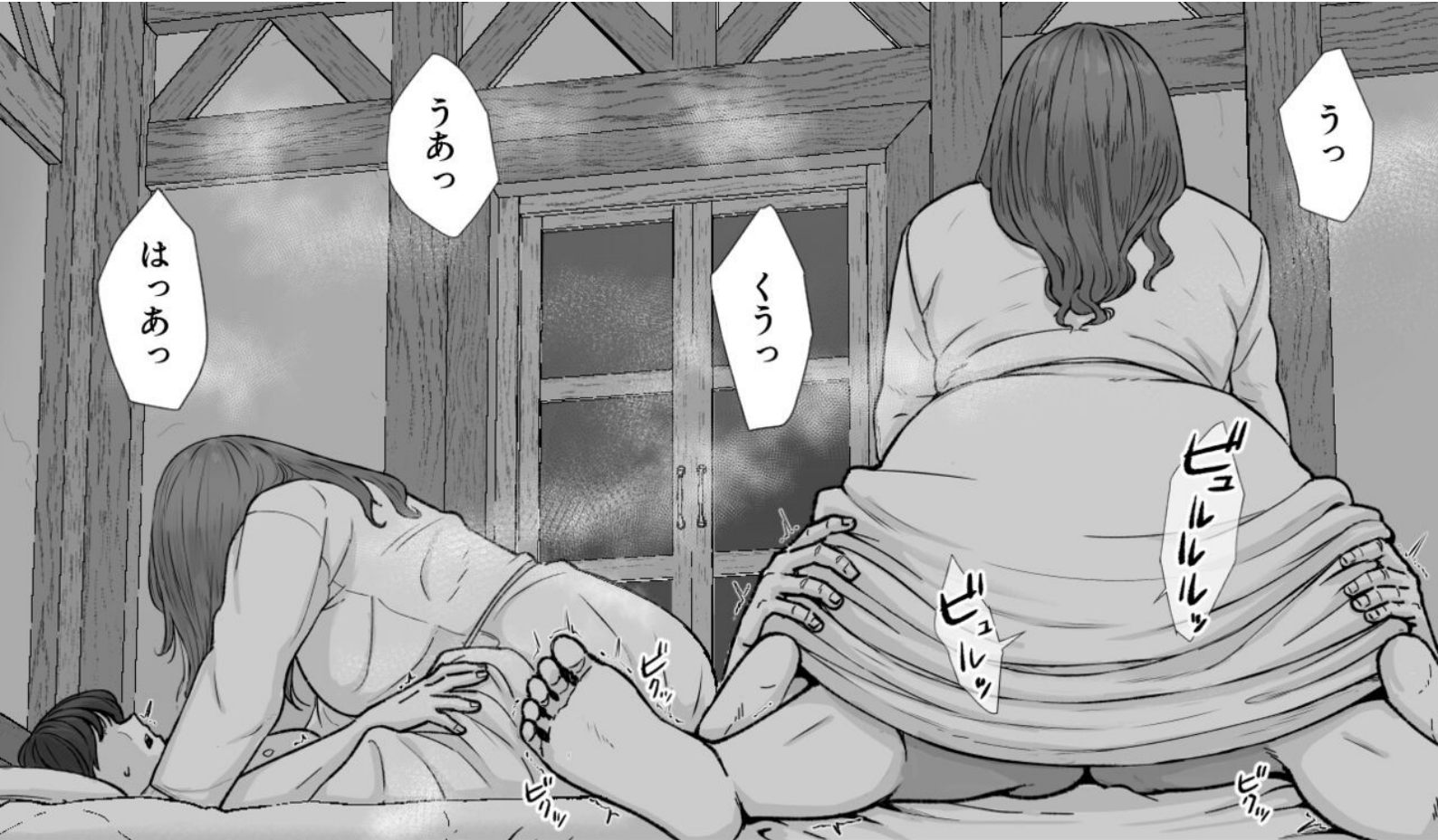
私が用意した
専用の香だけを
使用されること

どうきん
同衾なさる
直前に火を
入れること

この三点を
厳守してください

大丈夫





ルイスと
結婚して数年…



なかなか子供が
できない焦りの中で
友人^{クララ}から聞いた話

ある行商人が持つ
魔法の香炉を使えば
子宝に恵まれる…



正直胡散臭い話だと
思っていたけど…

こんなに激しく
求められるのは
はじめて…





まるで
夢みたい…



…本当に
魔法の香炉
だった？



夢…

みたい…な？



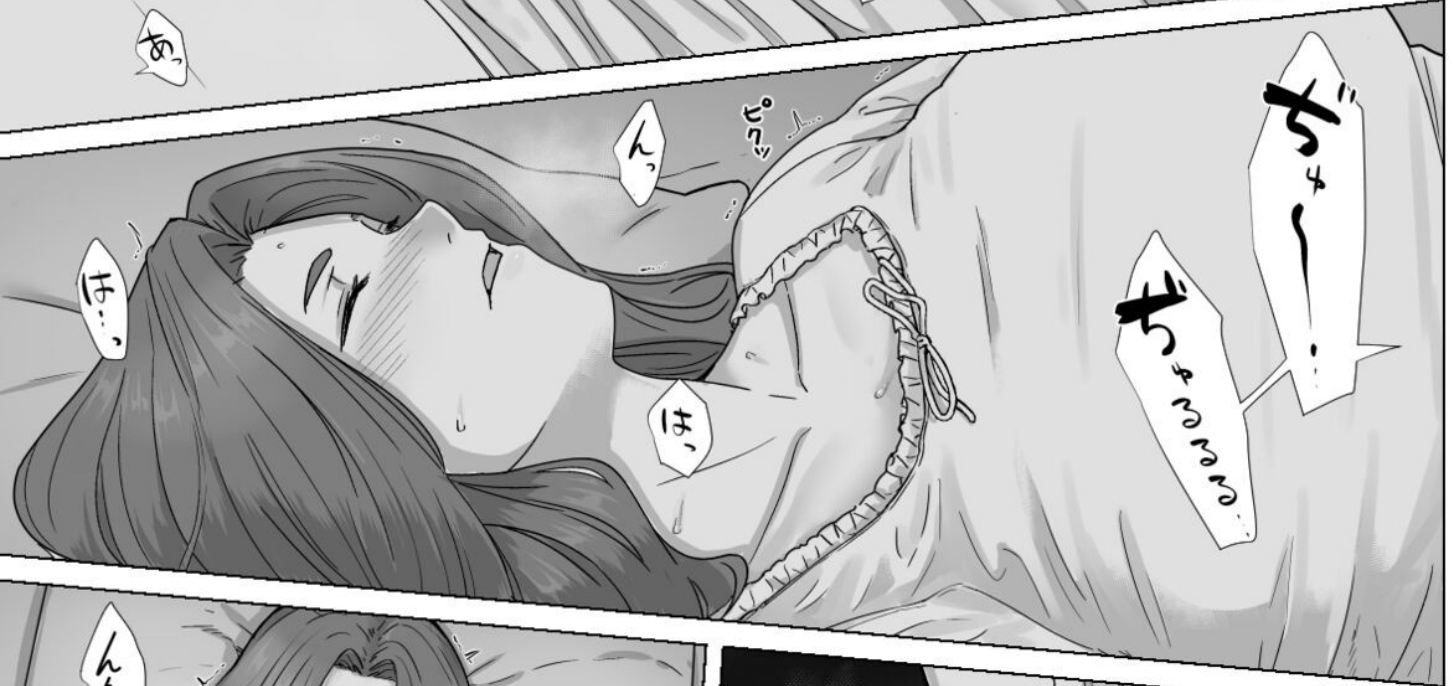
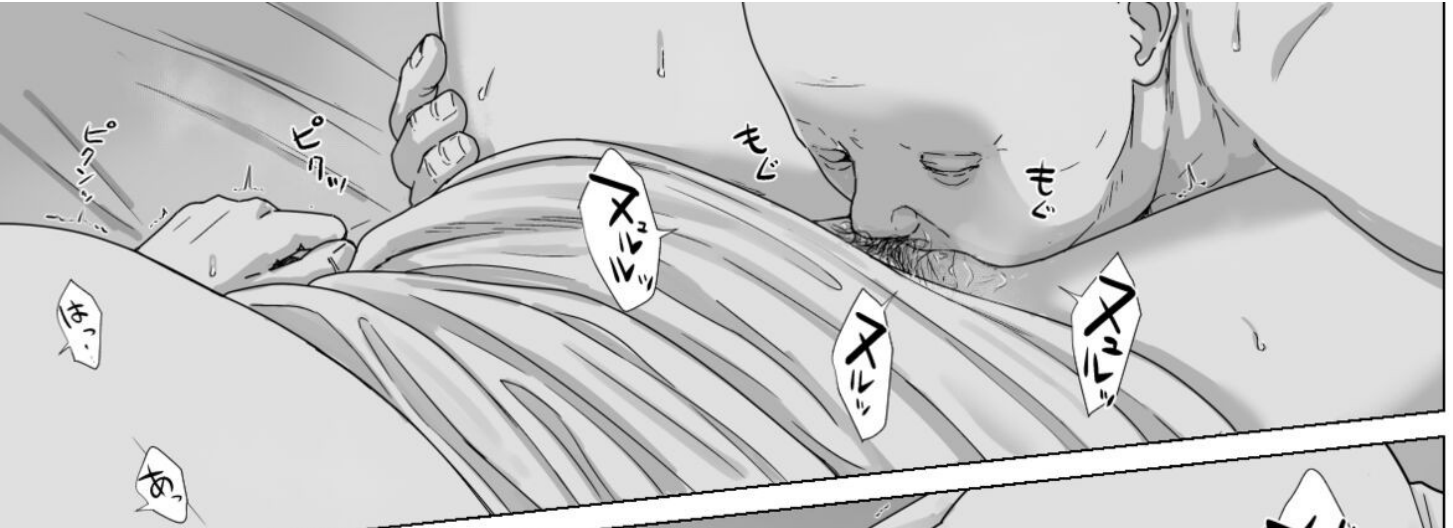
スー

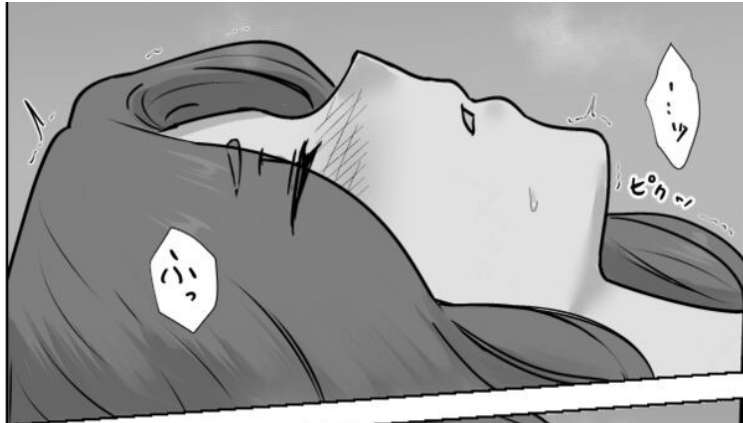
スー

ゴソ

ゴソ









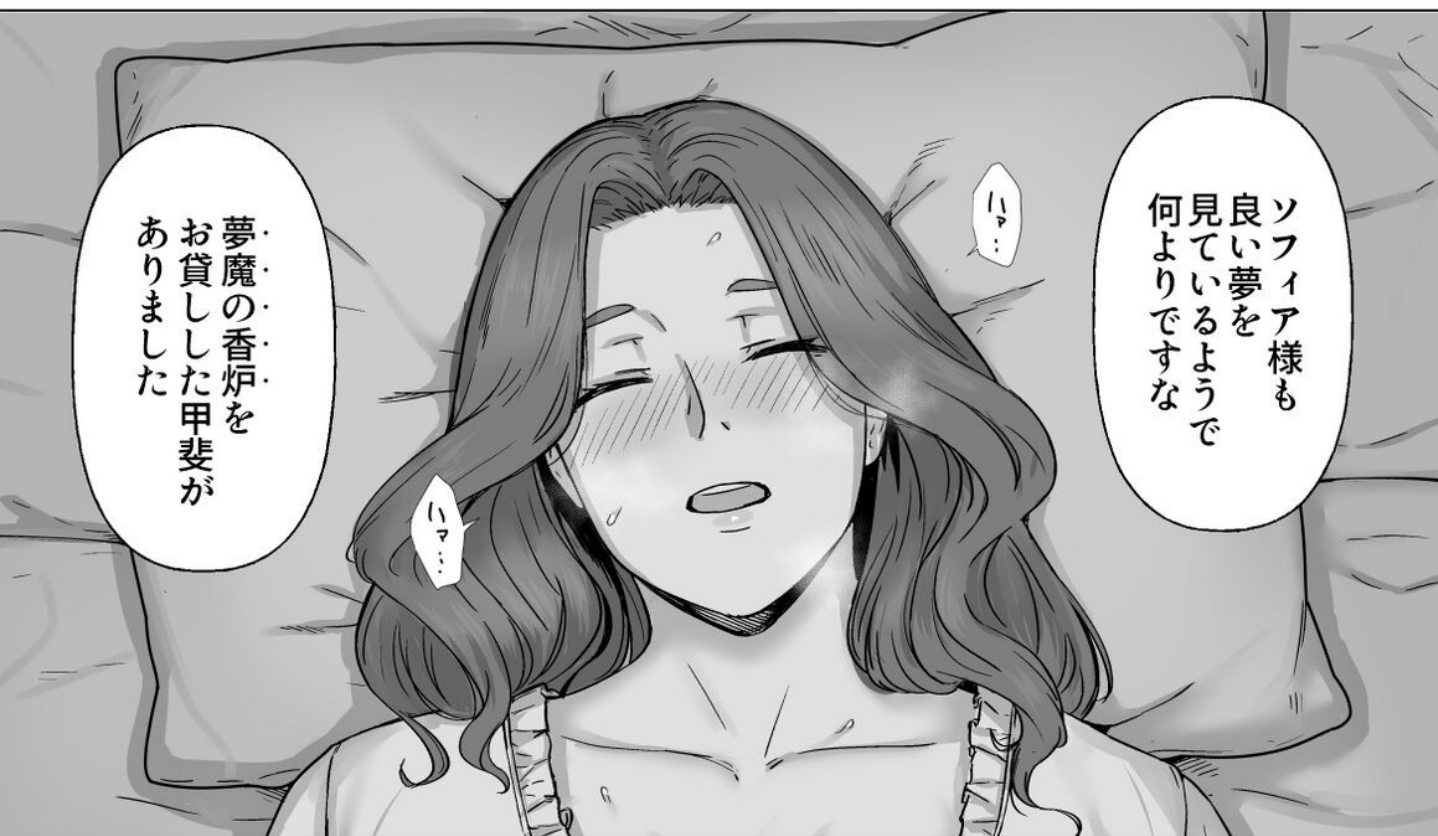
やはり若い女の
愛液は体に効く…



甘露 かんろ

甘露 かんろ

ふう〜

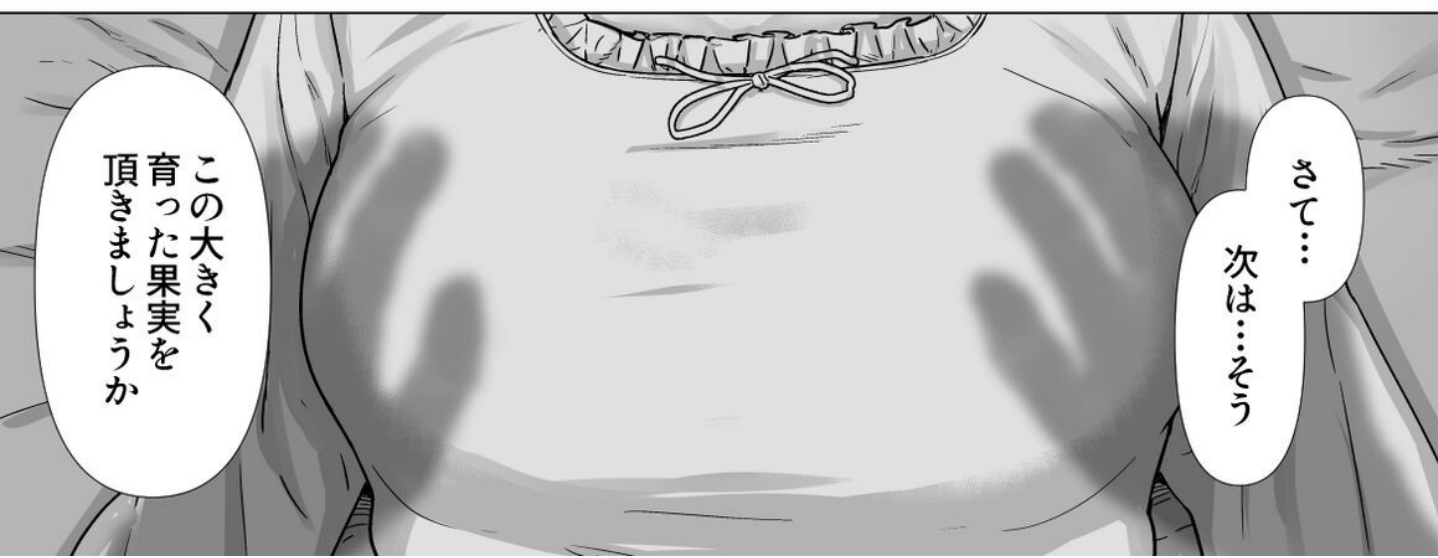


ソフィア様も
良い夢を
見ているようで
何よりですな

ハッ！

いマ…

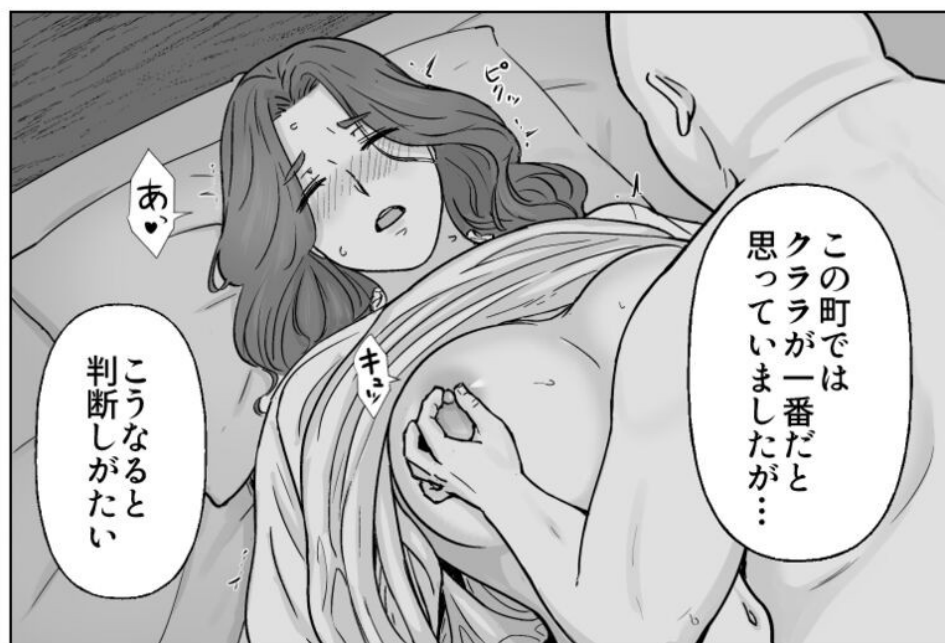
夢魔の香炉を
お貸しした甲斐が
ありました

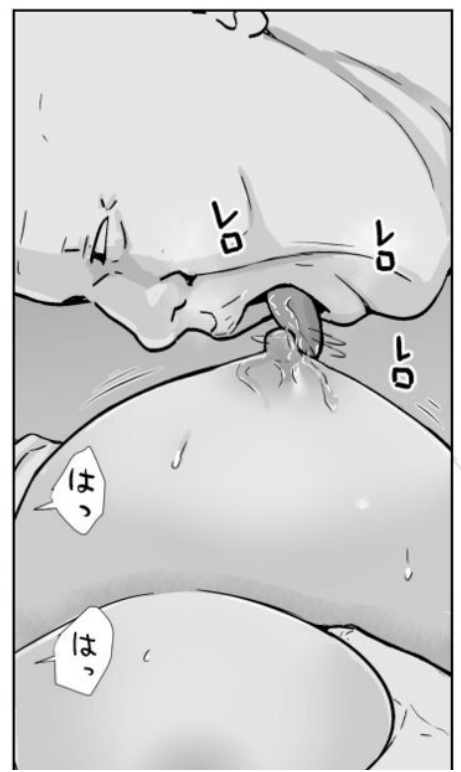


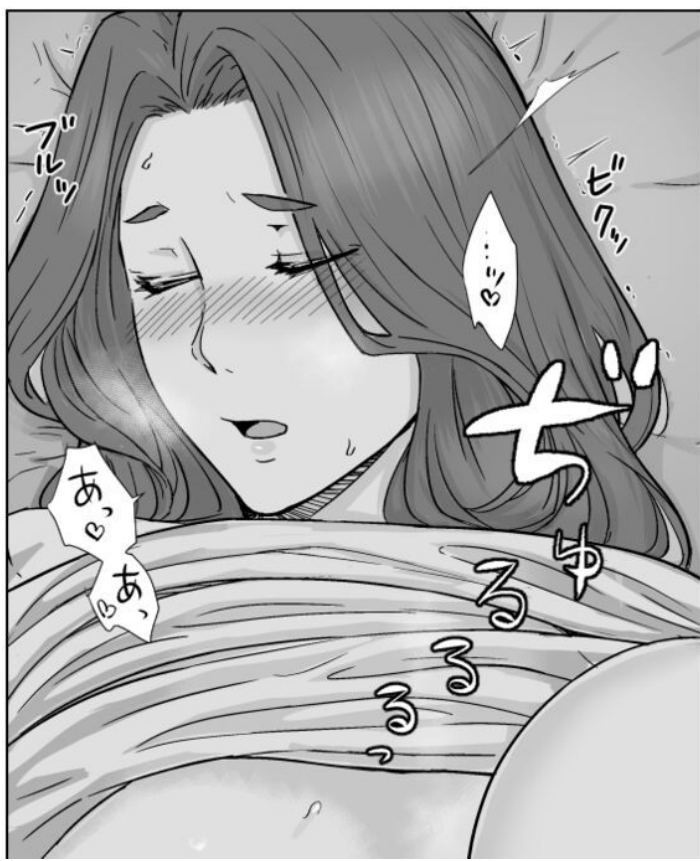
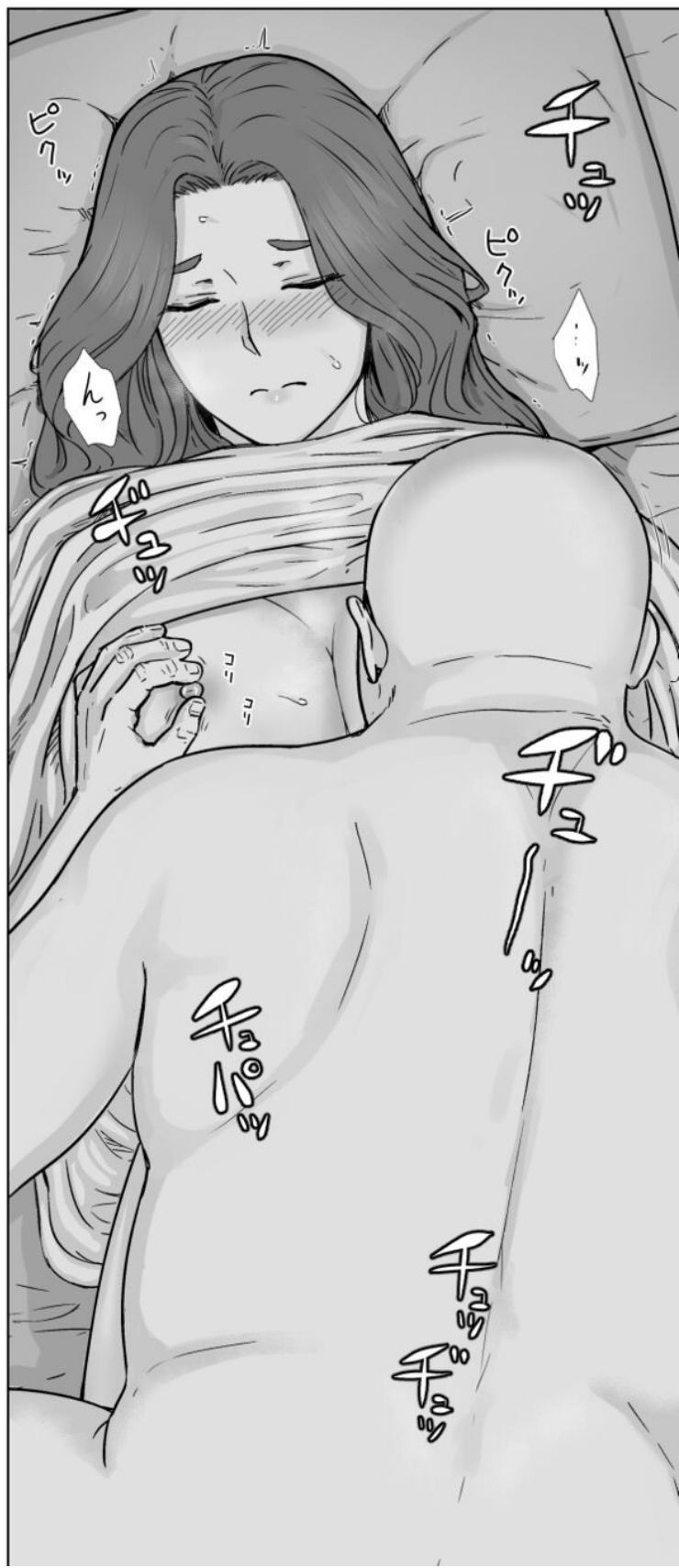
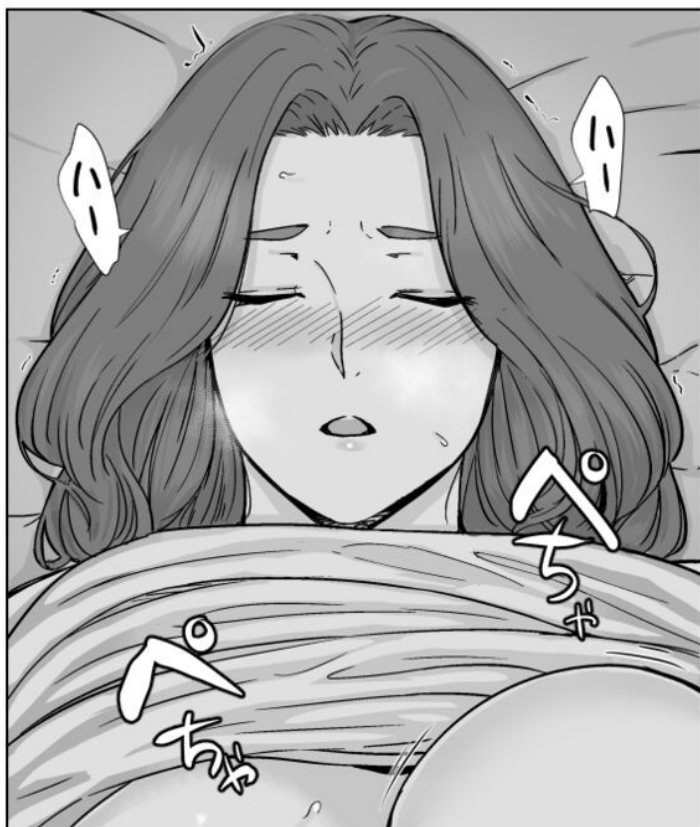
さて…
次は…そう

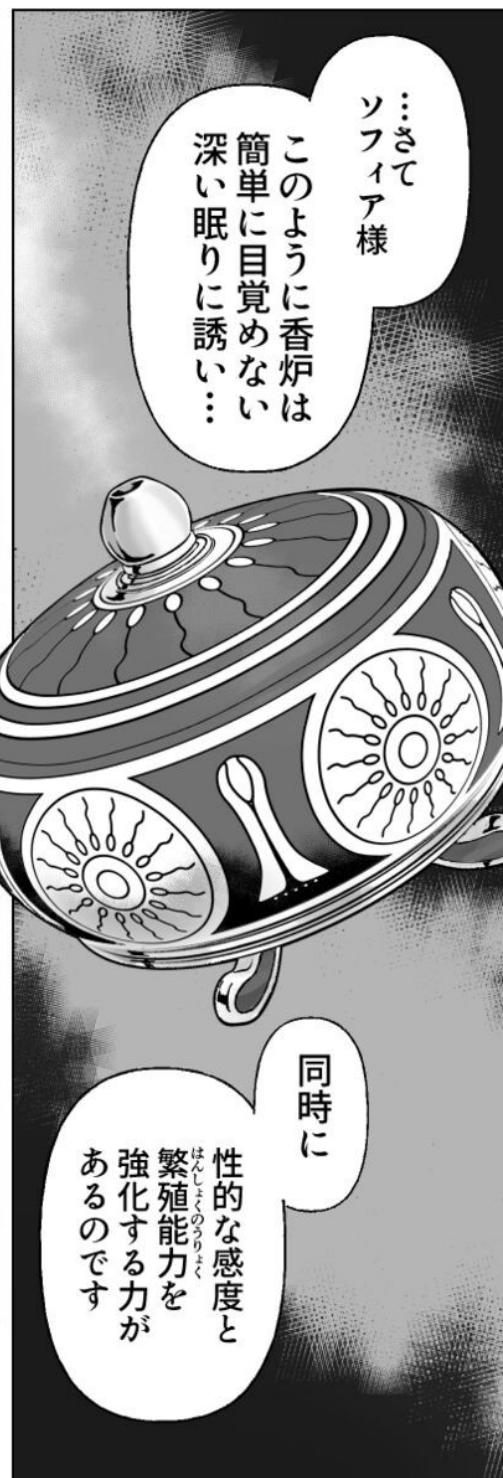
この大きく
育った果実を
頂きましょうか











ですがご安心を
ソフィア様

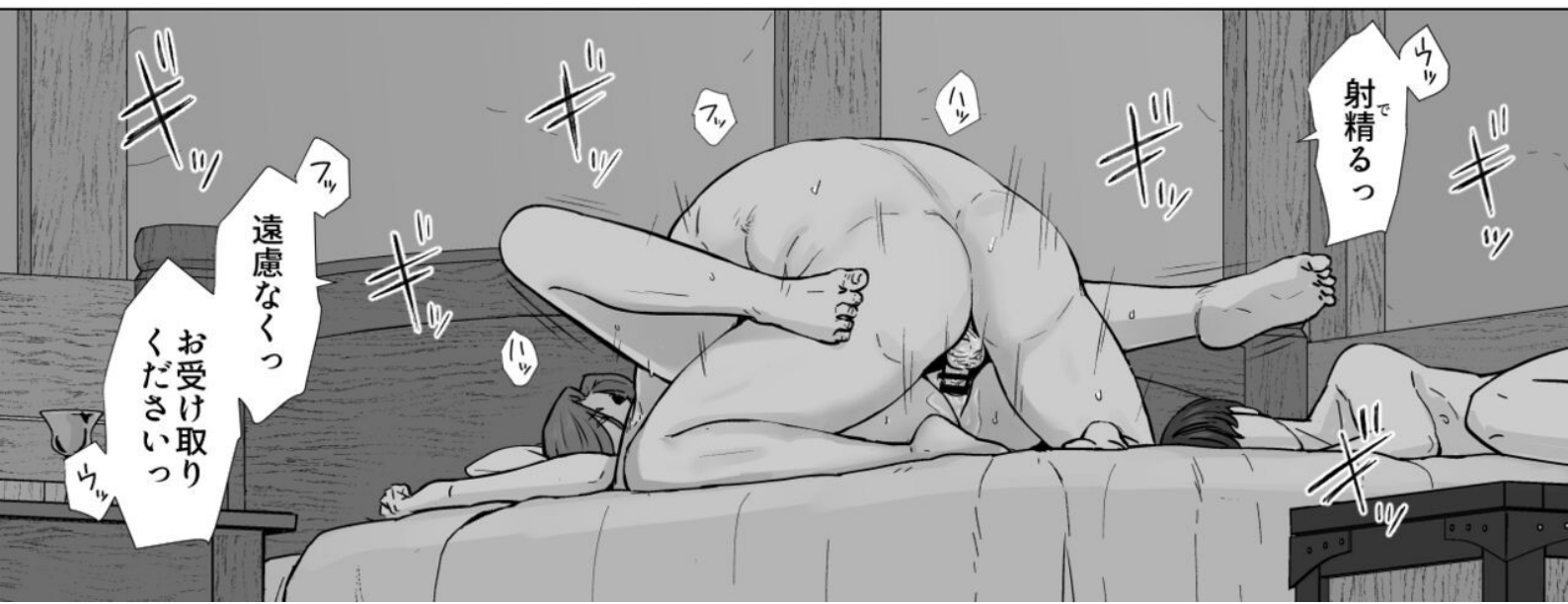
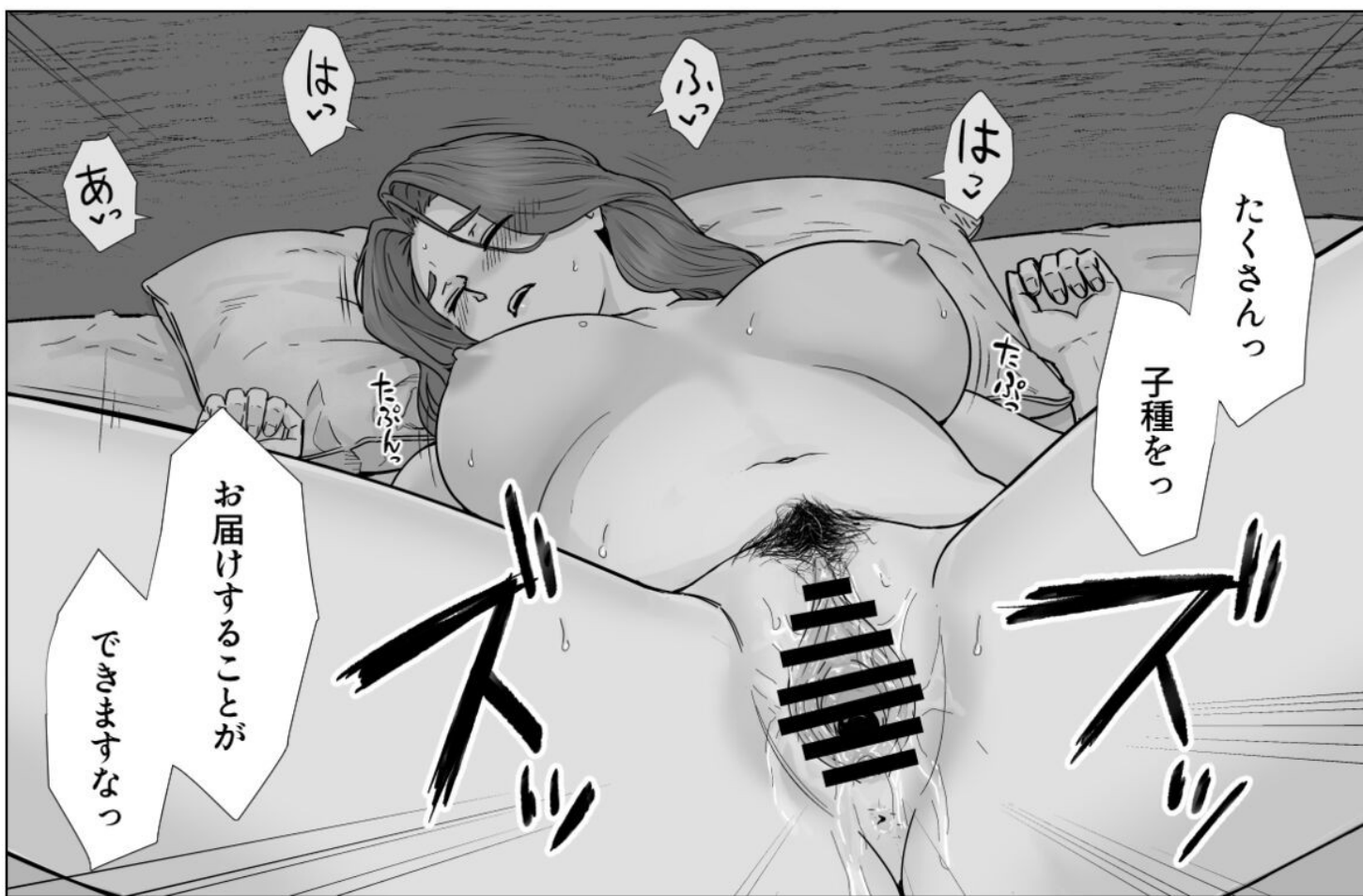
不肖ながら
このディルクが
代役を務めさせて
頂きます

性能はすでに
多くのご婦人方が
証明済みです

眠りへの耐性を持つ
私ならば香炉の力は
精力を高めるだけ！

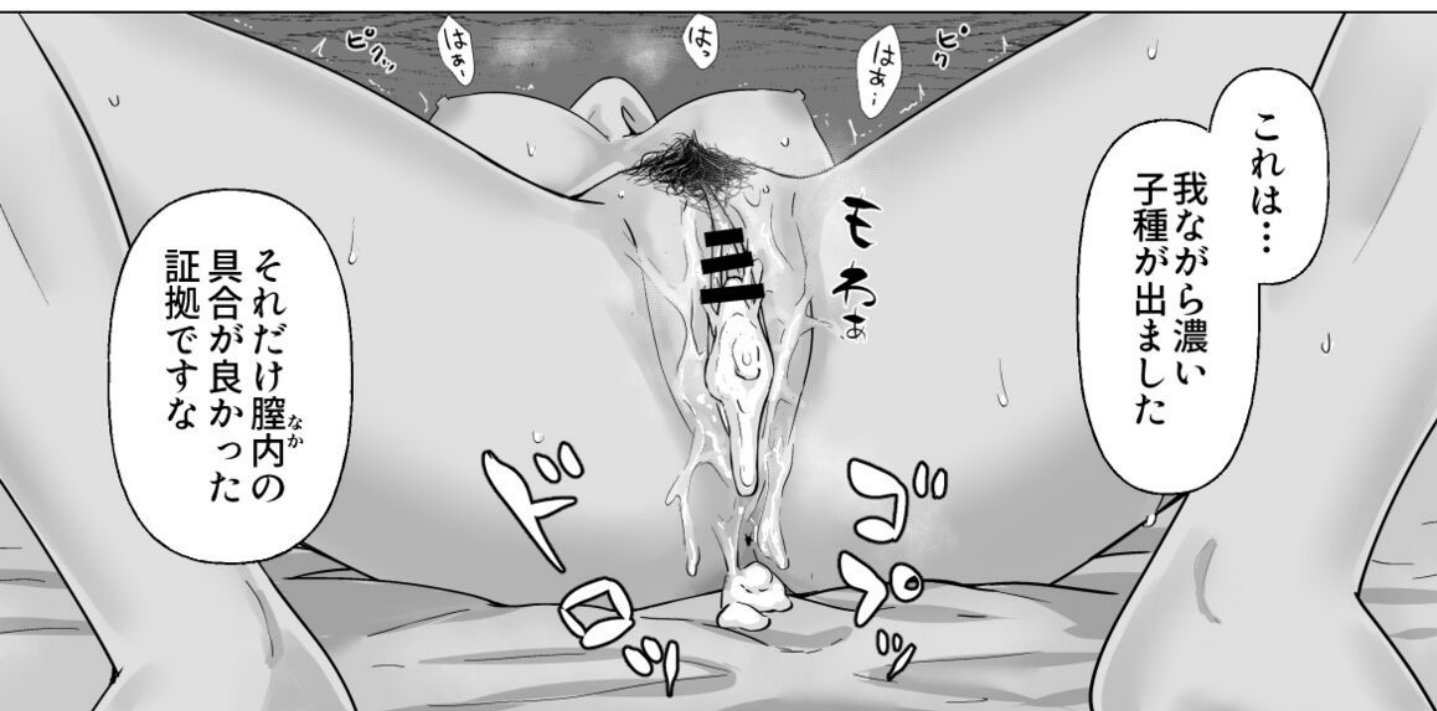
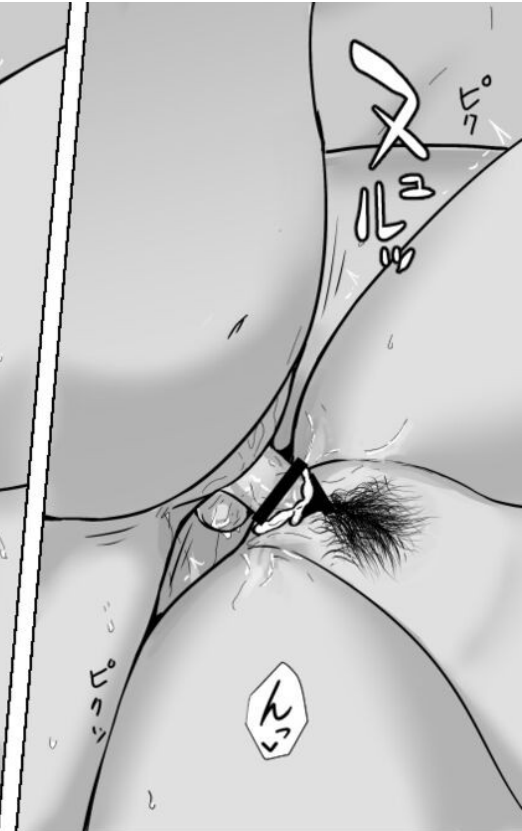
子作りの代行に
問題はありません

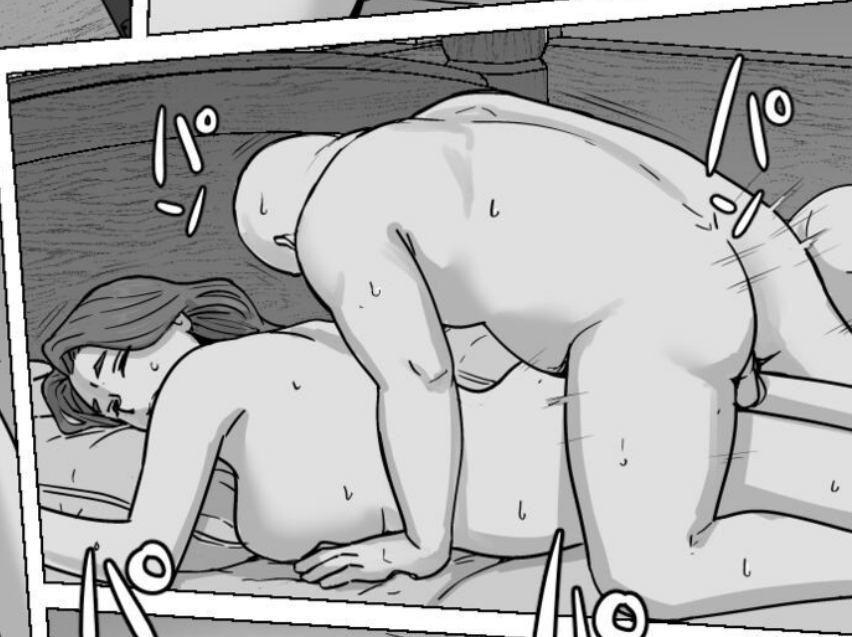
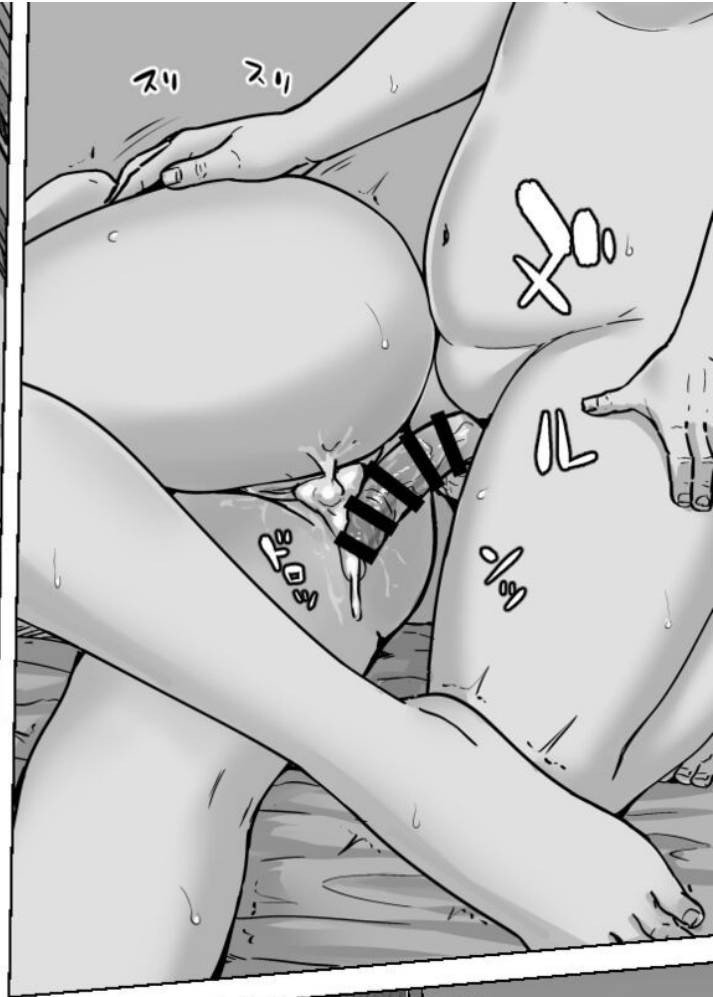




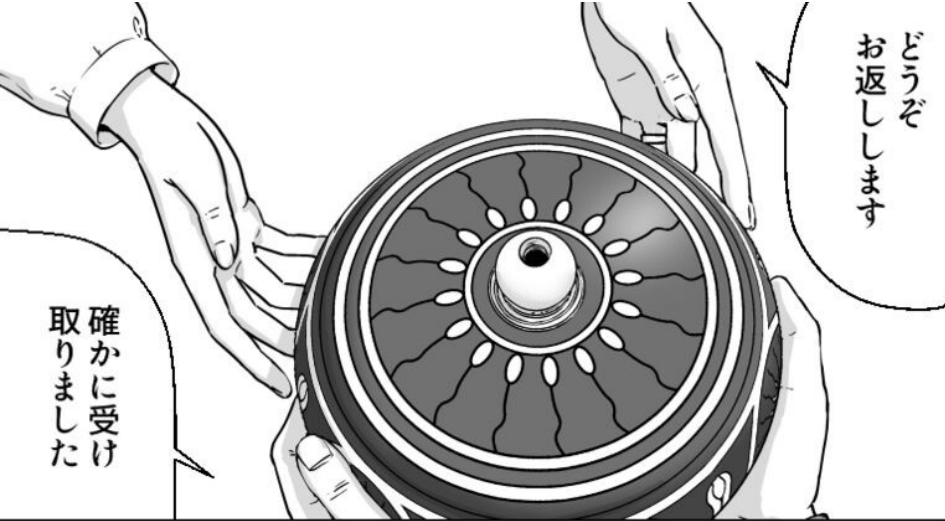














それはそれは...

ご満足頂けて
なによりです

特に意味はないかもしれない裏設定（おまけ）

夢魔の力を宿した魔法の香炉

ディルクが冒険者をやっていたころに手に入れた品。

もともと地下迷宮に住んでいた小鬼族が使っていた遺物であり多くの冒険者が餌食となっていたがディルクの所属していたパーティが討伐に成功。

斥候役だったディルクが最初に発見し、隠匿したまま持ち帰る。

その後しばらくしてパーティ内の女性二人の妊娠が発覚。リーダー格の男性が責任をとるためにパーティは解散。それを機にディルクは行商人に転職

主に恋にうかされた若者や子供を欲しがっている、もしくは夜の営みに不満がある夫婦にここだけの話として香炉の使用を勧める。

顧客が魔法に関する知識を持ってないことは事前に調査済みである。

ディルクは「子宝の香炉」と名付けて顧客に勧めるが実際には「夢魔の香炉」である。

香炉を使う際「睡魔」「催眠」「淫蕩」これら三つの香を使い分けている。

「睡魔の香」は嗅いだものを現実と見まごう夢へ誘う。夢で行った行為を起きた後も覚えており、現実にあったことだと誤認させる。男女の記憶を共有させるため、体毛を香炉の中に入れておく必要がある。

ディルクが全身の体毛を剃っているのは事故が起こるのを防ぐためであるが描写する手間が省かれて実に結構である。

本当にどうでもいいかもしれない由来

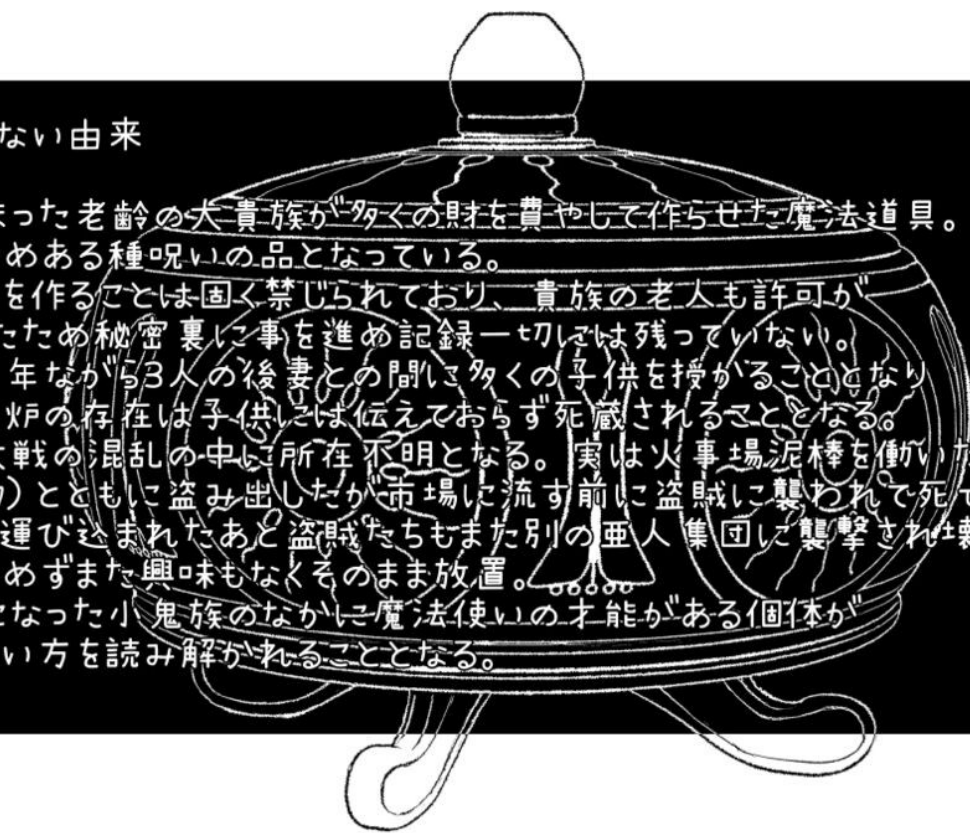
大昔に後継ぎが早世してしまった老齢の大貴族が多くの財を費やして作らせた魔法道具。夢魔そのものを材料にしたためある種呪いの品となっている。

魔導院の許可なく魔法道具を作ることは固く禁じられており、貴族の老人も許可が下りることはないと考えていたため秘密裏に事を進め記録一切では残っていない。

大貴族の男は香炉を使い老年ながら3人の後妻との間に多くの子供を授かることとなり最後は腹上死してしまう。香炉の存在は子供には伝えておらず死蔵されることとなる。

その後、孫の代に起こった大戦の混乱の中に所在不明となる。実は火事場泥棒を働いた兵士（文盲）が説明書（巻物）とともに盗み出したが市場に流す前に盗賊に襲われて死亡。族の拠点だった地下迷宮に運び込まれたあと盗賊たちもまた別の亜人集団に襲撃され壊滅。亜人たちは人間の文字が読めずまた興味もなくそのまま放置。

数百年後迷宮の新たな主になった小鬼族のなかに魔法使いの才能がある個体が生まれたことにより香炉の使い方を読み解かれることとなる。



今日も行商人ディルクはレプルス王国各地を渡り歩きながら顧客と子孫を増やしている。

NANASH|NOVEL
ADULT ONLY